

高齢者虐待防止のための指針（令和6年2月1日版）

特別養護老人ホーム 函南・ぶなの森
ショートステイ 函南・ぶなの森
デイサービス 函南・ぶなの森
訪問介護センター 函南・ぶなの森
ケアプラザ 函南・ぶなの森

1 高齢者虐待防止に関する基本的考え方

虐待は高齢者の尊厳の保持や、高齢者の人格の尊重に深刻な影響を及ぼす可能性が極めて高く、虐待の防止のために必要な措置を講じなければなりません。

函南・ぶなの森では、利用者様への虐待は、人権侵害であると認識し、高齢者虐待防止法に基づき、高齢者虐待の禁止、予防及び早期発見を徹底するため、本指針を策定し、全ての職員は本指針に従い、ケア・業務にあたることとします。

また、“利用者様に寄り添った優しい介護”を目指し、下記項目に配慮し質の高いケアを目指します。

- ① 利用者様、ご家族と気持ちの良い挨拶をし、積極的にコミュニケーションを取ります。ご家族への報告を行い、専門用語は言い換え、理解しやすい言葉を使います。
- ② 尊厳を持った言葉を使います。言葉だけでなく、態度・表情にも配慮します。
- ③ 認知症の方に対しては、場面や感情に沿った言葉を使い、安心できるよう寄り添います。また、生活習慣や環境を大切にし、機能維持ができるように努めます。
- ④ 利用者様にお待ちいただくときは、時間の目安を伝えます。（何々するまでお待ち下さい。あと〇分お待ちください。）
- ⑤ 利用者様を、呼び捨てたりあだ名を使いません。
- ⑥ 命令口調、否定的な言葉は使いません。無視しません。傾聴・共感を大事にします。
- ⑦ 職員は、常に見られている意識を持ち、第三者から見ても適切だと思える言動を意識します。
- ⑧ 職員は、お互いの休暇・休憩時間を大切にし、健康管理や気分転換に配慮します。

2 高齢者虐待防止委員会その他施設内の組織に関する事項

函南・ぶなの森では、虐待等の発生の防止等に取り組むにあたって「虐待防止委員会」を設置します。

①設置の目的

虐待等の発生の防止・早期発見に加え、虐待等が発生した場合はその再発を確実に防止するための対策を検討するとともに、虐待防止に関する措置を適切に実施することを目的とします。

②虐待防止委員会の構成委員

- ・ 施設長
- ・ 介護支援専門員
- ・ 生活相談員
- ・ 看護職員
- ・ 介護職員
- ・ その他必要に応じ委員を指名する。

③虐待防止委員会の開催

委員会は、年2回以上開催します。

虐待事案発生時等、必要な際は、随時委員会を開催します。

④虐待防止委員会の役割

- ア) 虐待に対する基本理念、行動規範等及び職員への周知に関すること
- イ) 虐待防止のための指針、マニュアル等の整備に関すること
- ウ) 職員の人権意識を高めるための研修計画に関すること
- エ) 虐待予防、早期発見に向けた取組に関すること
- オ) 虐待が発生した場合の対応に関すること
- カ) 虐待の原因分析と再発防止策に関すること

⑤高齢者虐待防止の担当者の選任

高齢者虐待防止推進のための担当者は、委員会の委員長とします。

3 高齢者虐待防止のための職員研修に関する基本方針

職員に対する権利擁護及び高齢者虐待防止のための研修は、基礎的内容等の適切な知識を普及・啓発するものであるとともに、権利擁護及び虐待防止を徹底する内容とし、以下のとおり実施します。

- ①定期的な研修の実施（年2回以上）
- ②新任職員への研修の実施
- ③その他必要な教育・研修の実施
- ④実施した研修についての実施内容（研修資料）及び出席者の記録と保管

4 虐待等が発生した場合の対応方法に関する基本方針

- ①虐待等が発生した場合は、速やかに市町に報告するとともに、その要因の速やかな除去に努めます。客観的な事実確認の結果、虐待者が職員であった場合は、役職位等の如何を問わず、厳正に対処します。
- ②緊急性の高い事案の場合は、行政機関及び警察等の協力を仰ぎ、被虐待者の権利と生命の保全を最優先します。

5 虐待等が発生した場合の相談・報告体制

- ①利用者様、利用者様ご家族、職員等から虐待の通報を受けた場合は、本指針に従って対応することとします。相談窓口は、2⑤で定められた高齢者虐待防止担当者としません。
- ②事業所内で虐待等が疑われる場合は、高齢者虐待防止担当者に報告し、速やかな解決につなげるよう努めます。
- ③事業所内における高齢者虐待は、外部から把握しにくいことが特徴であることを認識し、職員は日頃から虐待の早期発見に努めるとともに、虐待防止委員会及び担当者は職員に対し早期発見に努めるよう促します。
- ④事業所内において虐待が疑われる事案が発生した場合は、速やかに虐待防止委員会を開催し、事実関係を確認するとともに、必要に応じて関係機関に通報します。

〈相談・報告フロー〉



6 成年後見制度の利用支援

入居者及びその家族に対して、利用可能な権利擁護事業等の情報を提供し、必要に応じて、行政機関等の関係窓口、身元引受人等と連携のうえ、成年後見制度の利用を支援します。

7 虐待等に係る苦情解決方法

- ①虐待等の苦情相談については、苦情受付担当者は受け付けた内容を管理者に報告しません。
- ②苦情相談窓口で受け付けた内容は、個人情報の取扱いに留意し、相談者に不利益が生じないように細心の注意を払って対処します。
- ③対応の結果は相談者にも報告します。

8 当指針の閲覧について

当指針は、利用者様及びご家族の求めがあればいつでも施設内にて閲覧ができるようにするとともに、ホームページ上に公表します。

9 その他

権利擁護及び高齢者虐待防止等のための内部研修のほか、外部研修にも積極的に参加し、入居者の権利擁護とサービスの質の向上を目指すよう努めます。

付則

2024年2月1日より施行します。